

うちどく おすすめ絵本リスト

2023.4～2024.2

小学校
中学年版

この一年で図書館司書が毎月紹介した
絵本をリストにまとめました。



「うちどく(家読)」とは、家族で同じ本を読み、
その本について話し合うことです。
「うちどく」で家族のきずなを深めましょう！



●うちどくをはじめると、まずは絵本がおすすめ！●

絵本は短い時間で読める上に、文章や絵、読む年齢によっても
様々な感想を持てるので、幅広い年代が一緒に読む「うちどくの
本」として最適です。



●毎月第3日曜日は「うちどくの日」●

毎月第3日曜日は「うちどくの日」です。週末(金曜日・土曜日)も含めて「うちどく」に取り組み、家族のコミュニケーションを深めるとともに、読書習慣を身に付けていきましょう。

大洲市立図書館(東若宮)うちどくコーナーでは、毎月各年齢層1冊ずつ、図書館司書がうちどくに
おすすめの絵本を紹介しています。



1月
トラのじゅうたんになりたかったトラ
ジェラルド・ローズ/文・絵
ふしみ みさを/訳
岩波書店
2011年 ¥1500

インドのジャングルに住む年老いて痩せこけたトラは、広間でおいしそうにご飯を食べている王様一家がうらやましくてたまらない。ある日、宮殿のじゅうたんが干されている中に、トラの毛皮があるのを見かけたトラはとんでもないことをひらめいた！生き生きと描かれたトラの表情がとっつてもキュートな楽しい絵本。



12月
おかしなゆき
ふしぎなこおり
片平 孝/写真・文
ポプラ社
2012年 ¥2000

冷たい空気と水が作りだす、おかしな雪とふしぎな氷の世界へようこそ！降り積もった雪は、いろいろなおもしろい姿を見せてくれます。ぺちゃんこのパンケーキみたいだったり、コックさんの帽子みたいに高く積もったり。木にぶつかってこおりつくと、雪と氷のおばけ「アイスモンスター」に！?さむ～い冬が楽しみになります。



2月
ヨルとよる
あさの ますみ/作
よしむら めぐ/絵
教育画劇
2022年 ¥1400

外に出たことがない黒猫のヨルと、家で暮らしたことがないまちのネズミが偶然出会い、お互いが過ごしている夜を案内します。夜のまちで、優しい人間に会い、ホットドッグを分け合う2匹にほっこりします。「まぶしくてにぎやかな夜」と「まっくらでしずかな夜」。同じ夜でも違う夜。たくさんの「はじめて」を知るお話です。

現在購入できる版の出版年を掲載しています。
価格は2024年2月現在の本体価格です。

掲載については出版社の許諾を得ています。
無断で転載することを禁じます。

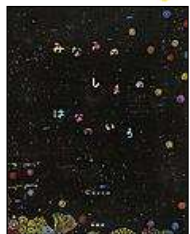
2024年3月発行
大洲市立図書館





4月
おなおしやの
ミケばあちゃん
尾崎 玄一郎／作
尾崎 由紀奈／作
偕成社
2022年 ¥1400

駄菓子屋の床下で「おなおしや」をしている猫のミケばあちゃん。古いめんこにお手玉にゴムひこうきに…つぎつぎと壊れたおもちゃがやってきて大忙し。ある日、駄菓子屋を閉めると聞いたミケばあちゃんは、おもちゃたちと一緒に、お客を集める作戦を開始します。ものを大事にすることの大切さを感じることが出来る絵本です。



5月
みなみのしまの
はなのいろ
Cocco／文・絵
径書房
2019年 ¥1500

南の島で、一輪の花がもうすぐ咲こうとしています。くじらは「赤い花がいいな」、カメは「黄色い花がいいな」と言い、海の生き物たちが思い思いに期待に胸をふくらませます。でも何色の花でも、ただ咲いてくれるだけでうれしい…。鮮やかな色彩と繊細なタッチのスクラッチアートで描かれた、いのちへの讃歌です。



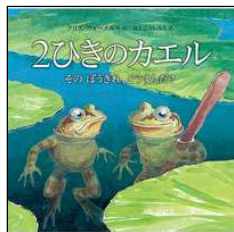
8月
ハタハタ
高久 至／写真・文
あかね書房
2021年 ¥1300

秋田県の海には、冬になると産卵のためにハタハタがやって来ます。かつては海の手先が見えなくなるほど多くのハタハタが集まっていたのに、いつ頃からか激減してしまいました。どうすればハタハタを未来に繋いでいくことが出来るでしょうか？ハタハタと秋田県の関係も知ることのできる写真絵本です。



9月
だかし屋の
おっちゃんはおばちゃんなのか？
多屋 光孫／作
汐文社
2022年 ¥1600

だかし屋のおっちゃんは、筋肉ムキムキで豪快だし、人前で平気でおならをする。ただある日「はるこちゃん」と呼ばれていたのを聞いてしまった！おっちゃんは男なの？女なの？いや違う、おっちゃんは、おっちゃんなのだ。男だから女だからの世界ではなく、自分が自分らしく生きることの大切さを考えさせられます。



6月
2ひきのカエル
クリス・ウォーメル／作・絵
はた こうしろう／訳
徳間書店
2022年 ¥1800

森の大きな池の真ん中、スイレンの葉っぱの上には2匹のカエル。1匹はなぜだか棒切れを抱えています。ありえないような危機に備える心配性なカエルと、それをバカにして笑うカエル。そんな2匹に迫ってくるものが…。備えあれば憂いなし！万が一の危機に備えておくことの大切さを、ユーモアたっぷりに教えてくれる本です。



7月
バジとあかいボール
松丘 コウ／作・絵
フレーベル館
2021年 ¥1300

歌のテストが苦手なバジは、「時間を進めてくれる赤い魔法のボール」を見つけ、テストの時に使おうと考えますが…。誰もが、苦手なことや嫌いなことをしなないといけない時。嫌々ながらもやってみると、あっという間だったり、思ったよりも大丈夫だったりするときもあります。頑張った経験は、またやってみようと思う力になります。



10月
楽園のむこうがわ
ノリタケ ユキコ／作
椎名 かおる／文
あすなろ書房
2021年 ¥1500

島に上陸した二人の少年。左のページの少年は自然や動物と共存しながら、右のページの少年は都市開発をしながら、自分たちの「楽園」をつくっていきます。ページをめくるごとに島の様子が変わっていき、どちらが人間にとって幸せなのかを考えさせられる一冊です。パリで活躍しているノリタケさんのイラストがステキです。



11月
すきなことにがてなこと
新井 洋行／作
嶽 まいこ／絵
くもん出版
2021年 ¥1400

ぼくはスポーツが大好きだけど、みんなの前で発表するのは苦手。そんな時は話すのが大好きなりんちゃんが一緒に発表してくれる。りんちゃんは動物が苦手。でも動物が大好きなけんちゃんが飼育係の仕事を手伝ってくれる。年齢も国境も超えて、「好き」と「苦手」が繋がっていき、支え合い、輪になっていく様子がとても素敵です。